

甲状腺検査実施状況報告  
集計方法の提案

## 【現状】

先行検査（1 巡目=検査 1 回目）

表 1 一次検査（3 実施年度別）

表 2 結節のう胞の人数割合（3 実施年度別）

表 3 二次検査（3 実施年度別）

本格検査（2 巡目=検査 2 回目）

表 1 一次検査（2 実施年度別）

表 2 結節のう胞の人数割合（2 実施年度別）

表 3 年齢階級別受診率（2 実施年度別）

表 4 先行 vs 本格検査の比較

表 5 二次検査（2 実施年度別）

## 【提案】

- 集計において検査時年齢（到達年齢）と検査間隔の概念を導入する
  - 受診率については、2 巡目の表 3 をベースとして、先行検査も含めて到達年齢別に集計（年齢区分は 5 歳階級や学齢区分などを適宜採用・以下同じ）。
  - 1 巡目について、表 1～3 を検査時年齢別に集計（分母となる対象者数は、一次検査については当該検査開始年度初頭の年齢、二次検査については一次検査時年齢などに統一・以下同じ）
  - 2 巡目について、表 1－2、5、6 を検査時年齢別に集計
  - 2 巡目について、表 1－2、5 を、実施年度 3 区分（H23/26、H24/26、H25/27）別に集計
  - 2 巡目について、表 4 を検査時年齢階級×検査間隔区分（例えば 1 年以上 2 年未満、2 年以上 3 年未満、3 年以上 4 年未満）（検査間隔は個人単位）に集計
  - 1 巡目、2 巡目について、発見がん数、がん発見率（いずれも疑い含む）等を、性別×検査時年齢階級別×検査間隔区分別に集計（がん発見率の分母は、対象者数、一次検査受診者数、二次検査受診者数、二次検査 A1・A2 判定以外の数、細胞診実施者数を分母にそれぞれ算出。検査間隔区分別は人年計算による対応でも可。）